

原油市況

原油価格は、ハリケーン「カトリナ」の上陸など需給ひっ迫感から騰勢を強め、8月30日にWT I（期近物）が終値で1バレル＝69.81ドルと史上最高値を記録したが、その後は下落基調に転じた。10月下旬から11月下旬にかけては、1バレル＝57～62ドルのレンジ内の動きが続いている。一時に比べ原油需給に逼迫懸念はないとの見方が優勢となり、下落基調で推移するとみられるものの、当面は原油価格の高止まりが予想される。

米国経済

米国では、05年7～9月期の実質GDP成長率（速報値）が前期比年率3.8%となり、景気拡大が続いている。11月のエコノミスト予想によれば、今後も3%台前半の経済成長が続くと見込まれている。ただしハリケーンの影響から10～12月期の成長率はやや押し下げられる見通し。一方、米政策金利は11月1日に0.25%引き上げられ4.00%になり、利上げ継続が示唆されている。米長期金利は4.6%台に上昇した後、このところは4.4%台後半に小幅低下して推移している。

国内経済

わが国では、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、緩やかに景気が回復している。7～9月期の実質GDP成長率（1次速報）は前期比+0.4%（年率+1.7%）と、4四半期連続のプラス成長。足下9月の生産は、電子部品・デバイス等ハイテク関連業種での在庫調整が終了し、10月、11月と上昇する見通し。また、設備投資は企業収益の改善を受け増加している。先行指標となる9月の機械受注は2ヶ月ぶりに減少したものの、7～9月期は前期比+2.1%となり、先行き10～12月期も同+5.2%と増加見通しであり、増勢を維持。雇用・所得環境の改善を背景に先行き消費拡大への期待などから消費者マインドも改善・向上している。

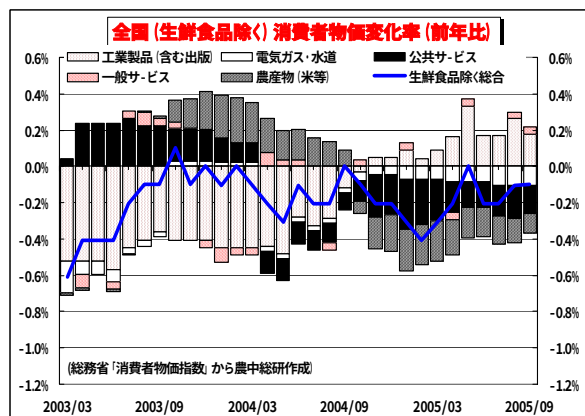
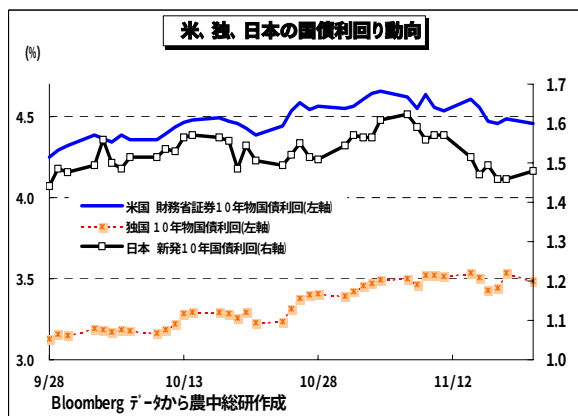
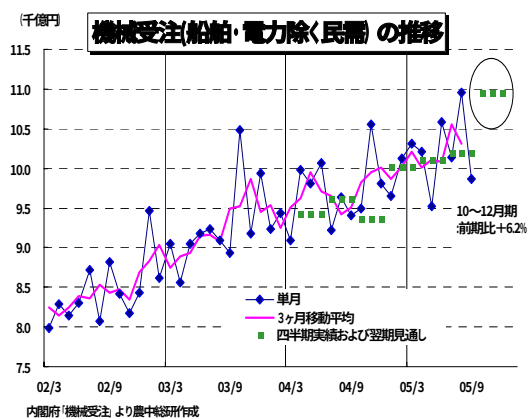
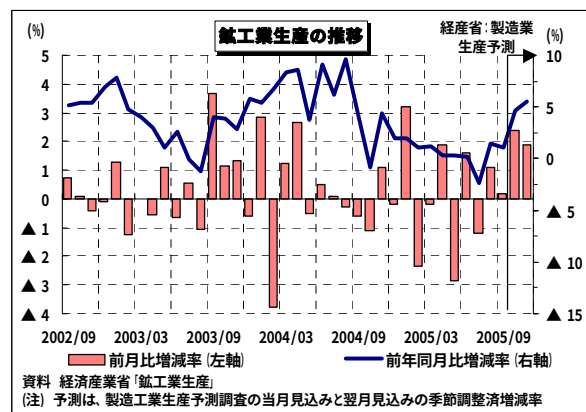
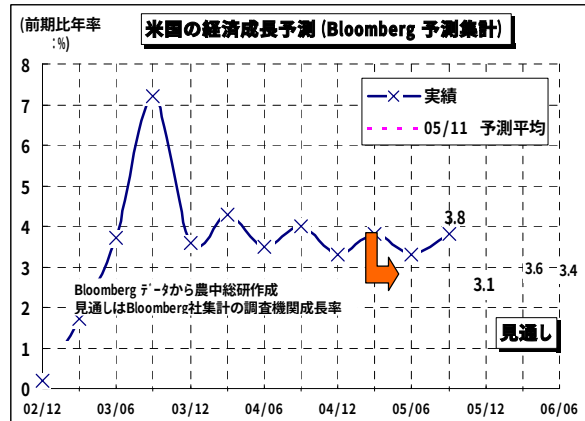
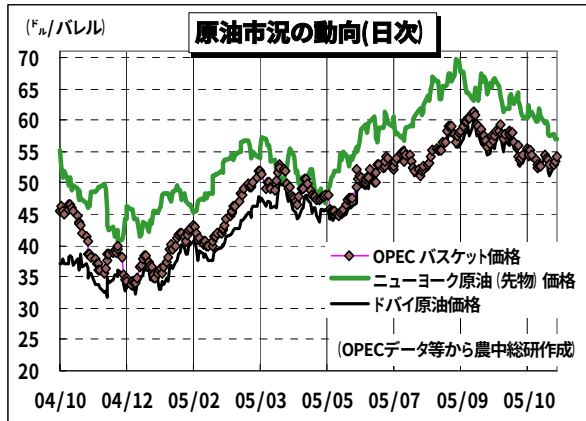
為替・金利・株価

外国為替市場では、米国の金利先高期待からドル高が急進し、11月中旬には一時1ドル＝119円を割り込む場面もあった。日本の長期金利の目安である新発10年国債利回りは1.6%台に上昇した後、このところは1.4%台後半に小幅低下して推移している。消費者物価は小幅下落をたどっているが、原油高に加え特殊要因の剥落から先行き上昇する見通し。日経平均株価は、国内景気回復や構造改革続行への期待感から続伸し、11月4日には4年5ヶ月ぶりに1万4,000円台を回復、年初来高値を更新した。

政府・日銀の景況判断

政府は11月の「月例経済報告」で景気判断を「緩やかに回復」と3ヶ月連続で据え置き。また日銀も11月の景況判断を「回復を続けている」と2ヶ月連続で据え置いた。

内外の経済金融データ



(詳しくは、ホームページ-トピックス-「今月の経済・金融情勢」 <http://www.nochuri.co.jp> へ)